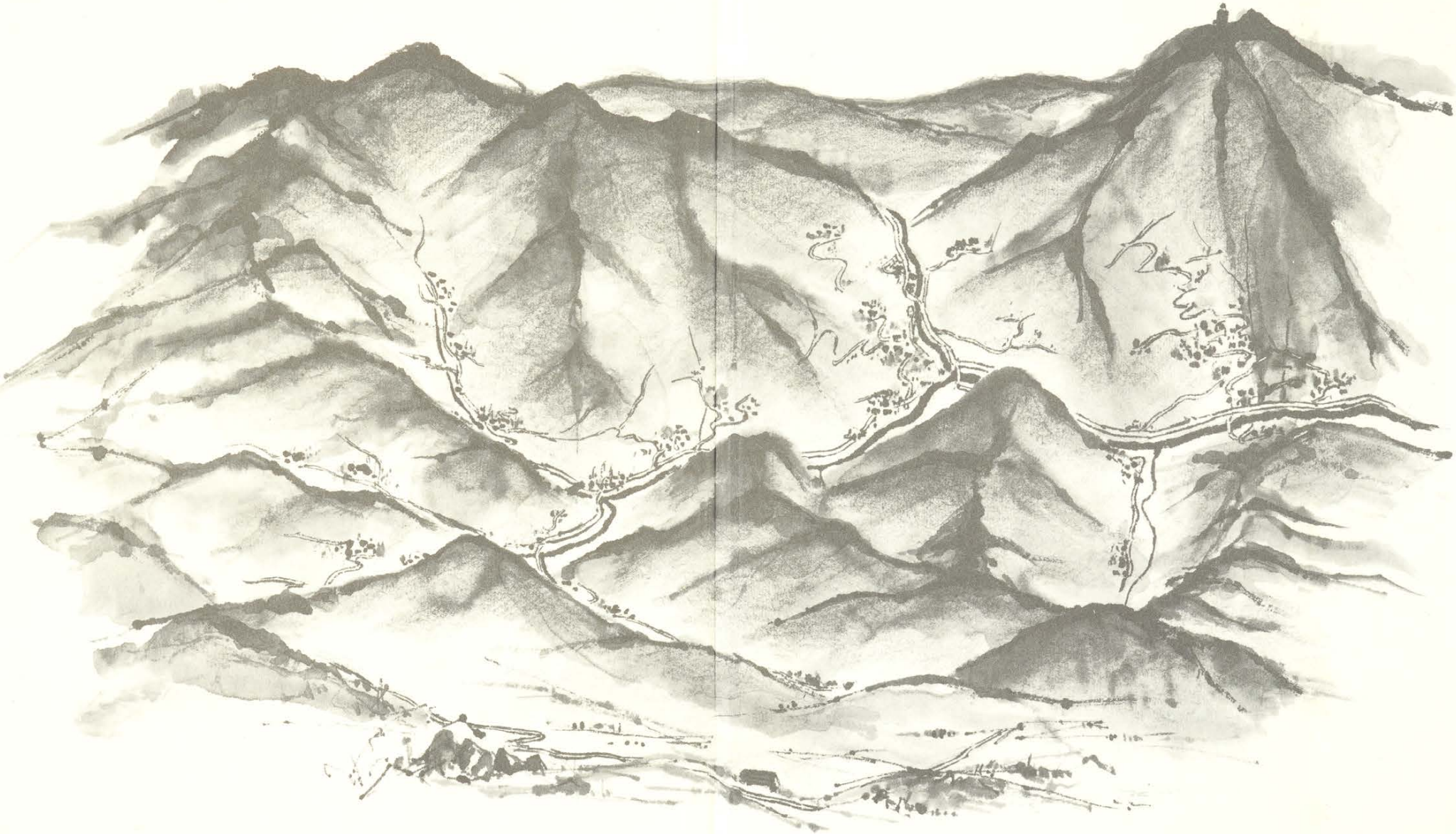
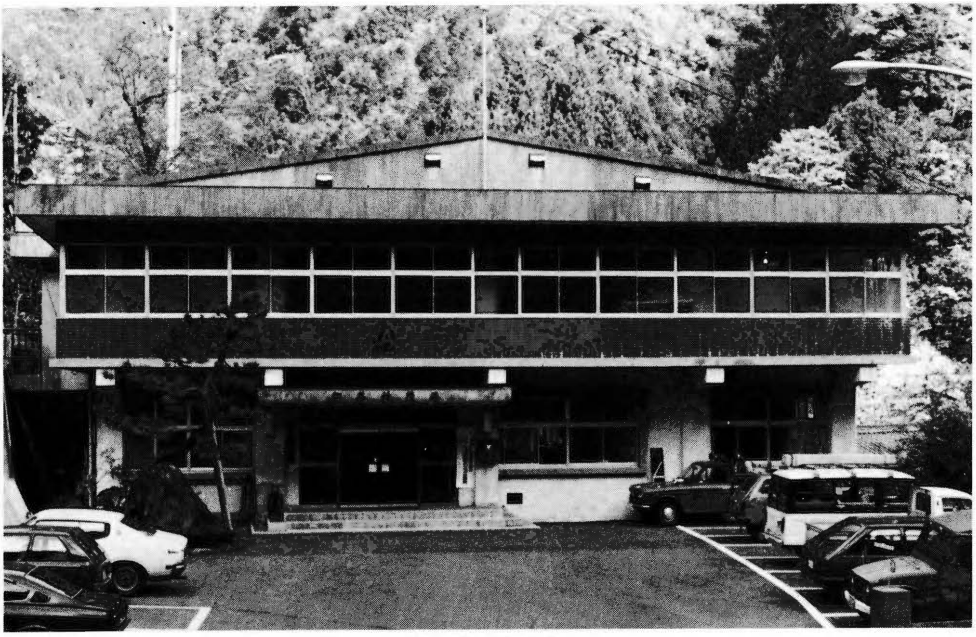
柳谷村誌



柳谷村誌

柳谷村のあけぼの（笠取山頂から明神山に向かって）

柳谷村落出付近



役　場　庁　舎

村役場職員（昭和58年11月）

村議会風景と村議会議員（昭和58年11月）

村誌編集者

歴代村長

3代　大窪傳次

2代　林　利與

初代　土居通誠

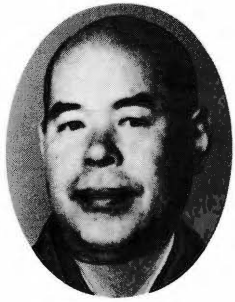
7
12代　永井元榮

6代　藤田順吉

5代　鶴井菊太郎

4代　鶴井浅次郎

11代　西本金太郎



10代　森岡悟一

9代　丸石繁賴

8代　高岸勝繁

14代　近澤房男

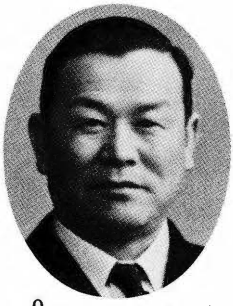
13代　政木茂十郎

歴　代
村議会議長

3
5代　兼井兼太郎

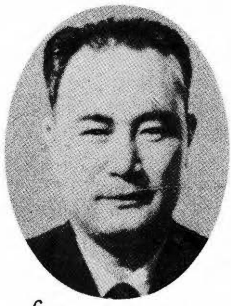
2代　森岡金三郎

初代　小坂外太郎



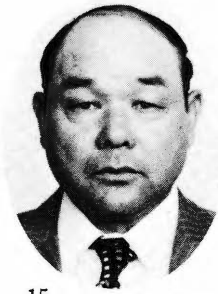
9
11代　松本吉市

7
12代　長谷夏國



6
8代　中村静男

4代　石村　重



15
19代　竹本俊夫

14
17代　高岸勝繁

13代　坂田昌武

10代　藤岡照男

21代　松本正男

20代　森岡惇一

16
18代　舘野義行

序に代えて　あすへのことづけ

柳谷村長　近澤房男

気が遠くなるほど永い年月、涯てしないひろがりの中で、たえまなくつづけた「巨いなる安定へのいとなみ」の果てに、四国の島のほぼ中ほどに相を見せているもの、それがわが郷柳谷村の自然であります。

われらの先人たちは、千何百年から二千年ぐらい前、この地に郷びらきをはじめたものと見えます。そのあしどりを自然のそれにくらべると、かぼそく感じられます。それだけに、先人たちと自然との問答には、大きい不釣合が避けられなかったことが偲ばれるのです。先人たちの生活は、自然から教えられ、鍛えられる日夜であったでしょう。自然と解りあうため、自然にわが意が通じるために、力一ぱいに「こころみ」がつづけられ、つみ重ねられ、蓄えられてきました。わが柳谷の人々の一ばん大きい希望は、「ゆききをたやすくすること」でした。その期待を「道つくり」に凝めて、努力を貫ぬき通しました。わが村人の一ばん大きいこころみであったのです。

また、ことばを拡げ、社会づきあいに慣れ、いろいろの技を工夫発明し、そうしてそれらのひとつひとつを、まとめあげ、しっかりと身につけ、慣わしの力としました。その慣わしの力を次々へ受け渡し、受

け継ぎしてきたのです。

わたくしは、この「先人のいとなみのあと」に、心からの尊敬と感謝をささげます。そしてきのうの遺産の重みをひしひしと感じるのです。きのうを受け継いた私たちは、一心になってきょうの村づくりにいそしみ、精一ぱいのこころみを重ねております。

きのうまでにきょうを添えて、あすへ継ごうとする「伝言書」。精一ぱい努力をしましたが、先人たちのこころみのあとについて、見落し見そこないはありはしないか、きょうのこころみのえらびかたに手落ちはないか、消え去り忘れられてゆくものごとに、意味づけすることに誤りはないか等々、反省をしております。しかし私は、お渡しするあすの方々から、きびしいご叱正がいただけることをよろこびとして、このつたない「ことづけ書き」をみなさんのご高覧に供するのであります。

編集関係者一同のご苦労と村民はじめ、各方面の方々からおよせくださった手厚いご協力とに、心からのお礼を申しあげて、序文に代えることばと致します。

昭和五十九年三月

村誌の発刊にあたって

柳谷村議会議長　松本正男

わたくしは、このたびの村誌の発刊にあたって、村民のみなさまにお歓び申しあげます。と共に、村誌編集関係のしごとにあたられた方々のご苦労に、心からの敬意と謝意をささげます。

私たちの村は、国道が二本も交わり、県道をはじめ、村道・農道・林道が網の目のように走り、水資源開発はつぎつぎにつづきます。自然のゆたかさ、人の触れあいのあたたかさにつつまれて、明るい生活環境はととのっていきます。

しかしながら、世のすすみにつれて、村民の生活はそのひろがりを増していき、生活々動のすべてが世界の大きい動きの波にかかわりを持つことになりました。村民の生業・経済活動のひとつひとつが、世界経済の波動をもろに受ける昨今であります。

この困難な中で村の将来を考えるとき、このたびの「村誌」の発刊は、時宜を得たものであると確信致します。私は、この「村誌」が、新しくすばらしい活力にあふれる柳谷村を築く一助となることを、心か

ら念願するものであります。

昭和五十九年三月

柳谷村誌　目次

口　絵
序に代えて　あすへのことづけ　柳谷村長　近澤房男
村誌の発刊にあたって　柳谷村議会議長　松本正男
題字揮毫　近澤房男

第一編　自　然

第一章　黒川渓の歌碑が象徴る柳谷の自然……三
第二章　いのちの讃歌……四
第三章　やなだにの自然の生い立ち……六
第四章　大いなる柳谷地塊……九
第一節　盤体が刻まれて彫りもののすがたになる……九
第二節　中津山塊と四国カルスト準平原……二
第五章　柳谷地塊（自然）のちから……一八
第一節　岩石と土壌……一八
土壌の生成　土壌の分類　土壌の分布　土壌の生産力可能性区分
岩石の大要
第二節　河川・谷沢……二三
谷川系統の大要　谷川の断面
第三節　気象現象……二九
複雑多様な気象現象　日照―気温
風―気圧―台風　雲―雨―雪　天気予兆へのねがい
第四節　「ひろば」と「みち」……三九
村政府―ひろば　情報系―みち
第六章　地肌のちから……四二
第一節　やなだにびとの文化化活動以前に見せていた地肌色―夏緑落

(広)葉樹林の肌色 …… 四三
植物の群落　植物・動物共生の生態
第二節　やなだにびとの文化化活動開始以後の地肌色の移り変り―焼畑を粧う地肌色 …… 四四
甲番地地域の焼畑つくり　乙番地地域へひろがる　拡がった焼畑はミツマタの花で黄色く彩られる　黄色いミツマタ畑蒼い林地に変る　蒼色の林相が醸す森林生態
第三節　県立自然公園(四国カルストを主軸とする)の草原・渓谷 …… 四六
第四節　柳谷にすむ鳥獣 …… 四九
第二編　歴　史
第一章　村の歴史への試み …… 五七
第二章　柳谷人の足跡の区分 …… 五九
第三章　農耕以前不定住期(移動的採収生活期) …… 六一
第四章　農耕的自給生活期 …… 六四
第一節　新しい生活様式への転換 …… 六四
植物栽培の発明　農耕生活のあけぼの　選地―定住―村の夜明け
第二節　村びらき―村の歴史のおこり― …… 六五
黒川文化のめばえ
柳谷のあけぼの　村社の建立　官道の変遷　民間山道の開通
第三節　定　住 …… 六八
みち　永い空白　土地えらび
第四節　焼畑山村社会の形成 …… 七三
自耕自給　山村形成　焼畑景観
第五節　分権的封建社会の崩壊―河野氏・大野氏の支配は終る …… 七五
河野氏の伊予国支配　大野氏の小田・久万支配　柳谷地域の番城　土佐一条氏の久万侵入を撃退する　笹が峠の戦　主家の衰滅により牢々の身に

第五章　農本的封建社会期　……八〇
第一節　新しい社会構造の出現　……八〇
第二節　農本的封建社会の構造特質　……八一
統一社会性　農本性　身分性
閉鎖性　防衛性
第三節　農本的封建社会の生活様式　……八三
社会的役割　村役人　村庄屋
百姓代　組頭　村三役に続いて五
人組頭　惣百姓　高い貢租　畑
所村　担貢能力財形意欲　凶作に
続く飢饉苦　厚生と信仰　住居
番所　医療　村びとの信仰
節倹・出精　抵抗
第六章　流通的自由社会期　……一〇八
第一節　新しい社会の出現　……一〇八
第二節　流通的自由社会の構造　……一一〇
統一国家性　通産化性　平等性
開放性　連帯性
第三節　流通的自由社会期の生活様式　……一一三
(一)　前期　通産化（工業化）社会期　明治四
（一八七一）年～昭和二〇（一九四五）年ま
で　……一一三
半封建的社会　土地税制　農山漁
村民の低所得　近代化施策　予土
横断道路
久万・梼原線の整備　……一一四
国道昇格　西谷住還　九尺道路開
設計画　馬道計画　柳橋改修
馬道開通　県道認定　運動費訴訟
問題　改修事業容易ならず　オリ
オへ着工　落出基点より改修始まる
匡救土木事業適用　就労者組合
もめる　永野、古味間開設に曙光
西谷の決議　相田裁定案　県庁
で村会　相田裁定再確認　用地交
渉　車道開通　国道昇格成る
(二)　後期　福祉社会化期　昭和二〇年代～
五〇年代へ　……一一六
混乱から安定へ（二〇年代）　生活基

盤中心の社会つくり（三〇年代）　経済開発と社会開発（四〇年代）　安定した福祉社会へ（五〇年代）

第三編　政治

第一章　「政治編」の位置づけ ……一七七
第二章　わが村の政治の概観 ……一七八
第三章　庄屋制度期　慶長二一（一五九七）年～明治三（一八七〇）年 ……一七九
第一節　庄屋制度期の政治特質 ……一八三
農本的封建社会　同一の通信連絡系統　責任遂行の協和体制　上意下達　下意上申　畑所村　備荒民積施策―久万凶荒予備組合の母胎　久万山凶荒予備組合のあゆみ　庄屋期の政道ここにみのる
第四章　戸長制度期　明治四（一八七一）年～明治二二（一八八九）年 ……一九四
第一節　戸長制度期における愛媛県行政区画の変遷 ……一九四
第二節　明治五年　大小区制下の戸数・石高 ……一九五
第三節　戸長制度期における柳谷村区域の行政組織 ……一九五
戸長制度の役割　戸長の任務　戸長行政費の措置　郡区町村編制法の制定公布　戸長制度期における重点施策　戸長制度期を代表する重点施策としての地租改正
第五章　村長制度期　明治二二（一八八九）年～昭和五八（一九八三）年 ……二〇六
第一節　村長制度期の政治特質 ……二〇六
第二節　「町村制」施行期の行政展開 ……二〇七
第三節　予土国境争論 ……二三七
国境争論の起り　明治二〇年代　明治三〇年代　未定地下戻申請　行政訴訟参加　弁護士雇入　大正時代
第四節　「地方自治法」施行期の行政展開 ……二三七

地方財政体系の確立　村政府活動の外部環境の構造変化
第五節　野村・柳谷境界紛争……二六二
第四編　産業・経済・通信・運輸
第一章　柳谷の地肌とのかけ橋……二九一
第二章　つ　ち……二九二
第一節　耕　地……二九二
焼畑つくり　切替畑の運営　水田造成（田掘り）　休場組耕地整理組合
久主地区の水田の動態　農業諸団体の組織化　柳谷村農会　柳谷村信用購買組合から柳谷村昭和信用組合まで　柳谷村農業会　柳谷村農業協同組合そして久万農業協同組合柳谷支所へ　農政の近代化　農地委員会の創設　農業委員会の創設
第二節　林　地……三一
林業の村　造林の足どり　森林組合の沿革
第三節　村有林造成事業の起り……三三
発想と財源確保　土地確保　造林事業着手　境界紛争　造林事業推進　造林事業中断　官行造林契約　伐採収穫　再造林
第四節　草　地……三三
役畜期　畜産化期　大規模草地開発畜産団地化期
第五節　外　地……三三九
海外移住
第三章　み　ず……三四八
第一節　飲用水……三四八
第二節　灌漑用水……三五〇
第三節　排水事業……三五一
集落排水施設　農業用水排水施設　谷川排水施設
第四節　養　魚……三五八
第五節　水力発電……三五九
第四章　ひかり……三六九

第一節　観光……三六九
第二節　柳谷村商工会……三八一
第三節　通信・運輸……三八四
㈠　郵便局……三八五
㈡　有線電気通信……三九二
㈢　柳谷村防災行政用無線局……三九五
㈣　道路……四〇五
㈤　運搬具……四一〇
人力　人力を補助する運搬具　畜力（駄馬）　馬車　自転車　自動車　ロープウェー
第五章　銭（ぜに）……四二五
第一節　「ぜに」が「くらし」を支配する……四二五
第二節　ぜにの流れから見た村の生活の移り変わり……四三五
㈠　第一期　塩代期（文歩（もんぶ）のころから銭匁のころまで＝庄屋のころから明治のはじめころまで）……四三五
㈡　第二期　頼母子（たのもし）期（一〇〇銭でやっと一円のころ＝明治中期から大正末期ごろまで）……四三六
㈢　農村匡救期（一〇円札が流通の王座を占める期＝昭和はじめから終戦まで）……四三二
負債整理　農家金融の近代化　経済更生計画とその実践
㈣　高度流通期（一万円札期＝昭和二〇年以降）……四三六
第五編　教育
第一章　学校教育……四四一
第一節　学制頒布以前の教育……四四一
第二節　学制頒布以後の学校教育……四四一
一　概説……四四一
学制頒布　教育令の公布　義務制の発足　大正期の小学校教育　昭和前期の教育　戦争下の国民学校
二　義務教育……四四七
第三節　戦後の学校教育……四六七
一　戦後の教育再建……四六七
二　新制中学校の発足……四七二
三　定時制高等学校……四七七
第四節　義務教育の充実発展……四七九

一　教育課程のうつりかわり……四九七
二　統合中学校の誕生……四八一
三　新しい教育の試み・集合学習……四八八
第五節　義務教育終了者の教育……四九一
一　農業補習学校……四九一
二　青年訓練所……四九四
三　青年学校……四九四
第二章　社会教育……四九八
第一節　戦前の社会教育……四九八
一　青年団・女子青年団……四九八
二　国防婦人会……五〇〇
第二節　戦後の社会教育……五〇一
一　概説……五〇一
二〇年代の社会の動き　三〇年代の社会の動き　四〇年代の社会の動き
五〇年代の社会の動き
二　幼児教育……五一五
幼児教育のはじまり　幼児学級の設置　へき地保育所への切り替え
幼稚園への切り替え　集合保育の実施
三　青年団活動……五二九
青年団結成と活動　青年団と学習活動　人口過疎化と青年団
四　婦人会活動……五三六
婦人会の結成と婦人の自覚　婦人会と学習活動　人口過疎化と婦人会
公民館活動と婦人会
五　壮年会活動……五四一
壮年会の結成　壮年会の活動
六　PTA（愛護班）活動……五五六
PTAの先がけ　PTAの発足
村PTA連合会の結成　PTAの学習活動　愛護班活動のはじまり
統合中学校とPTA活動　PTAの読書運動　人口過疎化とPTA
七　高齢者教育……五五六
人口過疎と高齢化への変貌　老友会の結成　郡老人クラブ結成と学習活

動　村の老人学習のはじまり　ホームヘルパー設置と対象者の様子
村の高齢者意識調査　高齢者学習の内容
八　社会体育……五六六
青年団と体育活動　スポーツ大衆化の動き　村主催スポーツのはじまり
体育の日と村民体育祭　スポーツの郡の動き　施設整備によるスポーツ活動の夜間化　地域公民館・団体等のスポーツ活動
九　公民館活動……五七五
公民館の源流　公民館運動と村のかかわり　青空公民館のスタート
中央公民館の建設と活動　地域公民館の建設と活動
第三章　教育委員会……五八五
第一節　教育委員会の発足……五八五
第二節　公選制から任命制へ……五八六
第三節　教育行政の歩み……五八七
第六編　民俗・文化
第一章　衣食住のうつりかわり……六〇七
第一節　衣生活……六〇八
一　衣服……六〇八
晴着　ふだん着　仕事着
二　履物……六〇三
下駄　草履・草鞋　足袋　革靴
ゴム靴
三　被りもの……六〇四
手拭　帽子
四　風呂敷・袋物・雨具……六〇五
風呂敷　袋物　雨具
第二節　食生活……六〇七
一　食物……六〇七
食制　主食　副食物
二　炊事施設……六〇一
台所　タキモン（薪）
三　調理・炊事用具・食器……六〇二

鍋・釜　茶沸し　汁杓子　桶類
カゴ類　食器　箱膳　シタミ
弁当入れ
第三節　住生活……六四四
一　住居……六四四
屋敷取り　ドウヅキ　チョウナハ
ジメ　棟上祝い
二　家の屋根……六四六
茅ぶき屋根　瓦屋根
三　家材料……六四七
四　家の間取り……六四八
五　家の中の設備……六五〇
燈火　風呂　暖冷房
第二章　通過儀礼……六五二
第一節　産育……六五二
帯祝い　出産
第二節　養育……六五四
名付け　名付け親　宮参り　食
べぞめ　初誕生　七五三
第三節　成人……六五五
第四節　婚姻……六五六
一　婚約……六五六
通婚圏　結婚観　すみ酒　結納
二　結婚式……六五七
祝言　嫁迎え　嫁入り行列　手
引き嫁さん　三三九度の盃　ヒザ
ナオシ
第五節　厄年・年祝い……六五九
厄年　年祝い
第六節　葬送……六五九
一　死亡……六五九
魂呼び　マクライ　二人使い
お通夜
二　葬儀……六六一
不幸組　お悔み　穴掘り・道具作
り　湯灌　入棺　葬儀　出棺
葬列　埋葬　トキノメシ　墓直
し
三　仏事……六六四
服喪　タンヤ　シジュウク　ア
ラボン　カンニチ　年忌

第三章　労働とならわし　……六六六
第一節　人と人とのつながり　……六六六
一　相互扶助　……六六六
モヤイ　イイ　コウロク
二　講　……六七七
(一)　崇敬講と代参　……六六八
伊勢講　金毘羅講　秋葉講　石鎚講　宮島講　子安講　久礼講
(二)　民間信仰的な講　……六七〇
日待講　愛宕講　大師講　えびす講
(三)　頼母子講　……六七一
親頼母子　馬頼母子　屋根講　瓦講
三　年齢集団　……六七二
子供組　若物組　夜這い　隠居組
第二節　奉公　……六七四
子守り奉公　あらしこ　弟子入り　でっち奉公
第四章　年中行事　……六七六
第一節　正月行事　……六七七
若水迎え　年始　正月礼　鍬初め　お日待　七日正月　アワンボ　鬼の金剛　二十日正月
第二節　春から夏の行事　……六八〇
節分　初午　桃の節句　春の彼岸　社日　花まつり　春祭り　五月節句　オサンバイサン　歯固め　夏祭り　半夏至　土用　七夕　お盆
第三節　秋から冬の行事　……六八四
八朔祝い　月見　秋の彼岸　秋祭り　亥の子　冬至　年の暮れ
第五章　芸能　……六八七
第一節　民謡　……六八七
一　仕事の唄　……六八八
田植え唄　うすひき唄　茶摘み唄　木挽唄　馬子唄　子守り唄
二　祝い・祭りの唄　……六九九

祝い唄　亥の子唄　胴搗き唄
嫁入り唄
三　わらべ唄……六九〇
(一)　手毬唄……六九〇
てまりとてまり　うけとった　わ
しのおばさん　一匁のいい助さん
おしょしょ正月　正月とえ　一か
け二かけ　一れつ談判　一番はじ
めは
(二)　お手玉唄……六九三
おじゃみ　日本の乃木さんが
(三)　羽子つき唄……六九三
一や二
(四)　鬼あそび唄……六九三
鬼ごと　かごめかごめ　坊さん坊
さん　中の中の弘法大師
(五)　縄とび唄……六九四
大波小波　ゆうびんさん　おはい
り
(六)　子取り遊び……六九四
子くれ子くれ
(七)　手合わせ遊び唄……六九四
夏も近づく
(八)　指遊び唄……六九四
いびつく　一が刺した
(九)　にらめっこ遊び唄……六九五
だるまさん
(一〇)　関所遊び唄……六九五
通りゃんせ
(一一)　幼児の唄……六九五
ちょうち
四　踊り唄……六九五
(一)　盆踊り唄……六九五
(二)　盆踊り唄……六九六
(三)　名荷踊り唄……六九七
三ツ拍子　ひけは　くりあげ
いよこ　つまたたき　ねずみのく
ぜつ　嫁入り　せんす
(四)　花取り踊り唄……七〇〇
五　万歳小唄……七〇一

豊年踊り　才蔵舞唄　宮島心中
義経千本桜　柱揃え　お半長衛
なぞづくし
第二節　獅子舞い……七〇六
本村祭獅子（松木）　小村獅子（小村）
西村獅子（西村）
第三節　踊り……七〇九
一　盆踊り……七〇九
二　名荷踊り……七一一
三　花取り踊り……七一三
第四節　万歳……七一四
一　立野万歳……七一四
第六章　伝承と俗信……七一五
第一節　伝説……七一五
一　自然伝説……七一六
井野早太の大杉　早虎神社の大杉
弾正が嶽　権現滝　赤滝　蛇が
石　イナキ石　八釜の竜王様
竜の川　竜宮渕　湯の成　お大
師穴　お大師さんとムカデ
二　歴史伝説……七一三
トキドと逆さわらじ　モリモリダ
塩売りさん　稲葉弾正と兵衛の太夫
鉢窪の大蛇退治　大寂寺と頼政の母
久栖のはじまり　関奥の起り　本
村組の開祖　猪伏池ノ宮神社の由来
平家落人の行方木地師　ヤジロ
ウサン　お百婆さん　きゅうざい
六兵衛　かまとこ
三　その他の伝説……七二五
山姥　山犬　エンコの恩がえし
第二節　俗信・俚諺……七二七
一　予兆……七二七
二　禁忌……七二九
三　呪術……七四二
付　俚諺……七四四
第七章　方言……七四七
第一節　愛媛の方言と当地方の方言……七四七
第八章　ふるさとの文化財……七五二

第一節　国指定の文化財……七三二
第二節　愛媛県指定の文化財……七三三
第三節　村指定の文化財……七三三
一　天然記念物……七三三
二　無形文化財……七三二
第四節　その他の文化財……七三三
一　神社……七三三
二　寺……七三三
三　史蹟……七三四
四　常夜燈……七三四
五　墓碑……七三七
六　記念碑……七三七
七　地蔵……七三二
八　石造物……七三三
九　絵間……七三四
一〇　久主の野取図（中津窪田）……七三五
一一　旧西谷村絵図……七三六
一二　古文書……七三八
一三　天然記念物……八〇〇

第七編　生活安全

序　存在することへの不安、そして安全への試み……八〇五
第一章　人籍―戸数・人口……八〇六
第二章　地　籍……八〇九
第一節　幕藩期　明治四（一八七一）年廃藩置県まで……八〇九
第二節　地券設定後　明治一五（一八八二）年……八一〇
第三節　明治末期……八一四
第四節　大正末期……八一四
第五節　地籍調査実施直前……八一五
第六節　地籍調査実施後……八一六
第三章　天　災……八一八
第四章　信　仰……八二〇
第一節　神社祠一覧……八二〇
第二節　寺院一覧……八二六

目　次

第三節　教会一覧……八六
第五章　医　療……八九
第一節　わが村で開業した医師・歯科医師一覧……八九
第二節　わが村における公共医療施設一覧……八三
第六章　治　安……八三
第一節　警察行政の大要……八三
第二節　消防行政の大要……八七
第三節　防災行政一般……八八
第四節　交通安全……八八
第五節　公害対策……八八
第七章　保　険……八八
第八章　貯　蓄……八八
柳谷村誌年表……八九
付　表　旧番地及び字名表……巻末 1
編集後記